

第 4 1 0 回

香川海区漁業調整委員会議事録

令和 7 年 8 月 2 5 日

第 4 1 0 回 香 川 海 区 漁 業 調 整 委 員 会 議 事 録

1. 開催年月日 令和7年8月25日(月)
午後14時00分～15時25分

2. 開催場所 高松市サンプォート1番1号
高松港旅客ターミナルビル7階会議室

3. 出席した委員

委	員	山	本	浩	智
〃		橋	本	時	雄
〃		北	野	廣	治
〃		宇	山	哲	司
〃		木	下	一	彦
〃		小	山	雅	司
〃		一	田	弘	樹
〃		北	尾	登	史郎
〃		嶋	野	勝	路
〃		石	原	千	代子
〃		筒	井	由	果
〃		島	瀬	勇	二

4. 關係列席者

水産課、事務局

漁業調整室長兼事務局長	植田 豊
室長補佐兼事務局次長	藤原 宗弘
室長補佐兼事務局次長	大山 憲一
副主 幹	小林 武
主 任	湯谷 篤
主 任	宮奥 昂次
主 任 技 師	丸山 俊輔

5. 議事事項とその結果

第1号議案 「海区漁場計画の変更について（事前協議）」

内容について事務局が説明し、協議した。

第2号議案 「イイダコ資源管理の取組み状況について（報告）」

内容について事務局が説明した。

第3号議案 「第1回資源管理方針に関する検討会（トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群）の概要について（報告）」

内容について事務局が説明した。

第4号議案 「令和7年度全国海区漁業調整委員会連合会の要望活動結果について（報告）」

内容について事務局が説明した。

6. 議事のあらまし

委員会の定刻となり、開会した後、北尾会長が議長となり、議事録署名人に山本委員と筒井委員を指名し、議事を進行した。

〔北尾会長〕

8月3日に森委員がご逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

それでは、第1号議案「海区漁場計画の変更について（事前協議）」事務局より説明をお願いします。

〔宮奥主任〕

（資料1に基づいて説明）

〔北尾会長〕

池田漁業協同組合の漁場計画で新規のかき養殖の需要が増えているのは、何かそういった要因があるのでしょうか。

〔藤原室長補佐〕

かきの三倍体養殖については、西日本に民間の種苗生産機関があり、そういうところが積極的に売り出しをして、ある程度の販売先まで、目星が付いているものが多いので、それに乗っている形です。ただ、生産したものが売れないことも考えられるので、1個体300円を目標に考えて対面販売などで需要を確保しつつあるようです。採算を取るのには難しいですが、大量に出す場合は200円前後を狙って、生産者自身が色々と声をかけながら動いているところです。

〔北尾会長〕

ほかに「海区漁場計画の変更について（協議）」について、ご意見等ございますか。

（意見等なし）

〔北尾会長〕

それでは続いて、第2号議案「イイダコ資源管理の取組み状況について（報告）」事務局より説明願います。

〔湯谷主任〕

（資料2に基づいて説明）

〔北野委員〕

これらのことは、岡山の遊漁者にも説明しているのですか。

〔植田室長〕

岡山県庁や岡山県内のマリーナに対しても説明を行い、協力をお願いしています。

〔北野委員〕

岡山のマリーナからの報告について、どれくらいの箇所を設定していますか。岡山から来る船が全体の7割ということで、香川ばかり調査してもだめでしょう。

〔大山室長補佐〕

令和5、6年に岡山のマリーナを直接訪問したり、チラシを配って協力をお願いしました。岡山のマリーナは分散しており、特に下津井地区には大きいマリーナがなく、玉島や笠岡、岡山港付近に多く、あまり釣れないイイダコを香川まで釣りに行く人は少ないと聞いております。ただ、玉島のマリーナのひとつについては結構香川に行っているということで、マリーナのオーナーさんも協力的だったので、そのマリーナに所属しているプレジャーボートの方からは報告してもらうことにしています。香川の遊漁船業者の方にはこれまでも報告をお願いしていて、データは集まってきております。ただ、プレジャーボートの把握が難しかったので、今年からマリーナの方にも協力してもらって、先ほどお示した様式のような形で、プレジャーボートから聞き取ってもらって、それをシーズン終了後に水産課に報告してもらおうと考えています。沖の現場では、プレジャーボート隻数と何人乗っていたかのデータを掛け合わせることで、より正確な数字がつかめてくるのではないかと考えております。

〔北尾会長〕

イイダコについて、その他はよろしいでしょうか。

(意 見 等 な し)

〔北尾会長〕

続きまして、第3号議案「第1回資源管理方針に関する検討会（トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群）の概要について（報告）」事務局より説明願います。

〔湯谷主任〕

（資料3に基づいて説明）

〔北野委員〕

東シナ海や瀬戸内海では資源量は減っているのに、太平洋でのトラフグ漁獲量は5倍ぐらいに増えていると聞いています。その原因が、資源量が増えているのか、回遊の方向が変わってきているのか、それとも現状獲ってなかったのに獲るようになったのか、それを調べないと分からないと思います。

〔湯谷主任〕

そういった質問についても会議内で出ております。資料の11ページをご覧ください。北野委員から発言があったように、近年太平洋側の漁獲が数十トンと増えているのは本系群から移動して、太平洋側で漁獲されているからであって、本系群の資源評価が過小評価ではないのかといった意見もありました。それに対して、現時点の国の見解は「分布域外への移動については、標識放流調査や遺伝子に関する研究などの結果から、分布域内による移動よりもかなり制限されている。」と資源評価に影響するほどの移動はないだろうということです。一方で、（関東・東北では）太平洋中・北部として、今調査が開始されている

ところでは。そういった調査のデータが積み上がってくると、こちらのトレンドも見ながら、どの程度の影響があるのかといったところも、分かってくるのではないかと思います。

〔北野委員〕

回遊が変わったからなのか、獲られなかったからなのか、水産庁で調べたら分かるのではないですか。

〔湯谷主任〕

今のところの国の見解ですと、系群内の漁獲情報は国が一括して各県から情報収集しており、系群全体の状況は国としては把握しているので評価可能であると思います。つまり、見逃している部分はないのだろうと思われます。しかし、他系群への移動など、分かっていない部分についての調査は継続していくという見解が示されました。

〔北野委員〕

また調査結果を報告してほしいと思います。地元の漁業者は10分の1も獲れなくなっているのに、宮城などでは4倍も5倍も水揚げが増えています。全体が減っているのならばそんなに獲れるはずがないと思います。タイも鳴門海峡過ぎたら中骨にコブができるとか、東から入ってくるものと西から入ってくるものとでウロコの形が違うように、フグでもそういった特徴がわかるならば、どこで育ったものが太平洋に回遊していたのか分かるはずです。そこまで詳細に調べていないと思います。調べられるなら、調べておいてほしいと思います。

〔北尾会長〕

ここで問題なのは親魚量が増えているのに、加入量が減っているのはおかしいのではないかとということだと思いますが、資料の2ページに、そのメカニズムについて、水産庁は加入個体の由来について、調査を検討するとありますが、これで原因とかが分かるものなのでしょうか。

〔湯谷主任〕

トラフグ資源の特徴である親魚量が増えているのに、加入量が減っていることについては、会議の中で皆さん、すぐに疑問に思われて、質問が殺到しました。トラフグは生まれた海域に戻るといわれていますので親魚は関門海峡を越えて産卵しに来るのですが、国は関門海峡の水温が近年高くなっており、トラフグ親魚が入って来にくくなって、加入につながる産卵がうまく行われていないのではないかと回答していました。しかし、科学的というか、具体的な原因については分かっていないので、追加でこれを示したとしても、原因の特定については難しいのではないかと思います。

〔北尾会長〕

その辺の可能性についても国は今後、調査してくれるのでしょうか。

〔湯谷主任〕

国は、資源の全体像が分からない部分があるからといって、数量管理をどこまで足踏みするのかといった、現に数量管理を進めていくための課題について具体的に進めていく流れになっていくのだと思います。

〔北尾会長〕

このことについて、その他についてはよろしいでしょうか。

(意 見 等 な し)

〔北尾会長〕

それでは、第４号議案「令和７年度全国海区漁業調整委員会連合会の要望活動結果について（報告）」事務局より説明願います。

〔宮奥主任〕

（資料４に基づいて説明）

〔北尾会長〕

国に対する要望につきましては、事務局から説明がありましたように、７月２３日の午前中は会長県１県、副会長県５県の６名と事務局で国土交通省や外務省などに要望活動を行い、午後には理事会として私も含めて理事１０名ぐらいが加わって水産庁の櫻井管理調整課長他７、８名に対し、要望と意見交換を行ったところです。特に、香川県や岡山県など瀬戸内海の県からは、やはり漁業者による漁獲以外に遊漁による漁獲が非常に多いので、今後新たにＴＡＣ魚種を設定する場合については、遊漁に対する漁獲調査を踏まえた上で資源評価を行って欲しいとの要望をしました。国としては、最終的にはクロマグロのように遊漁を対象とした資源評価や資源管理を将来的にはやっていきたいが、当面の取組みについて回答を頂いたところです。この要望につきましては、１１月に全漁調連の西日本ブロック協議会がございまして、今後各県に照会がございしますので、要望がありましたら、事務局の方に言っていただきたいと思います。この件について、何かご意見等ございますか。

（意見等なし）

〔北尾会長〕

その他ということで、事務局から何かありますか。

〔藤原室長補佐〕

その他ということで１件ご報告があります。中讃地区で数年来課題になっておりました塩飽漁連の建網漁業権に対する入漁の件ですが、８月７日に中讃西部漁業協同組合の志摩組合長と塩飽漁業協同組合連合会の小見山会長の間において入漁に関する契約が交わされました。契約期間は令和７年９月１０日から令和８年９月９日までの１年契約で、昨年と同じ内容での更新ということで進んでおります。前期から委員をされている皆様には意見を頂きながら進めてきた案件ですので、また動きがありましたらお知らせします。

〔北尾会長〕

その他、事務局から何かありますか。

〔小林副主幹〕

次回の海区漁業調整委員会ですが、特段の事案がなければ、１１月下旬に漁場計画変更の諮問を予定しておりますので、よろしくお願いします。

〔北尾会長〕

それでは、以上をもって第４１０回海区漁業調整委員会を閉会します。

〔閉 会 午後１５時２５分〕

上記は第 4 1 0 回香川海区漁業調整委員会の議事の顛末に相違ありません。

議 長 北尾 登史郎

署名委員 山本 浩智

署名委員 筒井 由果